



一般社団法人 ARO 協議会  
第 4 回 生物統計セミナー in TOKYO  
— 観察研究データの解析 —

日時 : 2017 年 2 月 4 日 (土) 14:00 -17:00

会場 : コンファレンススクエア エムプラス 1F 「サクセス」

〒100-0005 千代田区丸の内 2-5-2 三菱ビル (電話 03-3282-7777)

<http://www.marunouchi-hc.jp/emplus/access.html>

主に観察研究データの解析についての理解を深めていただくことを目的として本セミナーを開催いたします。  
皆様のご参加をお待ちいたしております。

## プログラム

司会 : 京都府立医科大学大学院医学研究科 生物統計学

教授 手良向 聡

14 : 00 – 15 : 20

### 1. 観察研究データにおける交絡調整の方法

横浜市立大学大学院医学研究科臨床統計学

准教授 田栗 正隆

治療法のランダム割付を伴うランダム化比較試験と異なり、観察研究においては治療とエンドポイントの両者に関連する第三の要因による交絡が治療効果を推定する際に大きな問題となる。例えば、生存期間をエンドポイントとするがんの臨床研究において、試験治療群と対照治療群で重症度が異なる場合、単純な群間比較では正しい治療効果を推定できない可能性がある。本発表では、観察研究における交絡の調整方法について、近年使用例が増えている傾向スコアを用いた方法を含めて、事例に基づいてできるだけ分かりやすく解説を行う。

15 : 30 – 17 : 00

### 2. 観察研究データを用いた予測モデルの構築

東京大学大学院医学系研究科生物統計学分野

准教授 大庭 幸治

治療効果を正しく推定することを目的とした解析以外で、観察研究データを用いて多く行われる解析の 1 つが予測モデルの構築である。予測モデルの構築に際しては、一般には複数の予測因子を組み合わせることになるが、どの因子をどのように組み合わせるのか、構築された予測モデルの妥当性をどのように評価するのかなど、悩ましい点が多い。本発表では、2015 年に発表された予測モデルに関する報告の透明性向上を目指した TRIPOD ガイドラインを踏まえ、予測モデル構築方法について分かりやすく解説を行う。

主催 : 一般社団法人 ARO 協議会